

もみじ読書旬間

校長 関川 紀美子

秋も深まり、寒さが本格的に感じられる頃となりました。感染症予防対策はもちろんですが、特にこの時期は子どもも大人も体調管理には気を配りたいものです。朝ごはんをしっかり食べる、睡眠を十分にとる、早寝早起きなど規則正しい生活を継続し、これからは毎日元気に登校してほしいと思います。2学期の折り返し地点です。保護者の皆様には引き続き、感染予防対策や健康管理をお願いいたします。



さて、藤塚小学校では、子どもたちが読書に親しみ進んで本を読むことや読書習慣を身に付けることをねらいに、年間を通じて朝読書の時間を設定しています。また、年2回の「あじさい読書旬間」と「もみじ読書旬間」の取組も行っています。

本来、子どもたちは読書好きです。ところが、年齢が高くなるにしたがって、活字離れが起きてくる傾向にあります。テレビやゲームなどのメディアにふれる時間の増加やスマートフォンなどから簡単に情報が手に入る時代です。ですから、読書離れが起きてても不思議なことではありません。このことについては、私たち大人が子どもの生活環境について考え、整えていく必要があります。

読書は、自ら本を読むことで言葉や語彙が増えたり、想像力が育まれたり、人の気持ちや感情を学んだりすることができるといわれています。いい本との出会いは、いい人との出会いに似ているともいわれます。

「魔女の宅急便」の作者であり、2018年に国際アンデルセン賞作家賞を受賞された角野栄子さんは、「読書で育まれた想像力は、心の深いところに残っていく。そして、それが、その人自身の言葉につながっていくと思う。人から聞いて単なる知識としてもっている言葉ではなくて、自分自身の血肉となる言葉。私は

『体はディクショナリー（辞書）である』とよく言ったりするけれど、自分の言葉を豊富にもっていることは、その人の心の豊かさにつながると思う」と話していらっしゃいます。

今月は、9日（火）から19日（金）まで「もみじ読書旬間」です。新しい本もたくさん入りました。よい出会いのきっかけとなるように楽しい企画も準備されています。

右の写真は、図書委員会の子どもたちが児童玄関の掲示板で紹介してくれた図書室の本です。子どもたちが、この機会に素敵な本とたくさん出会い、さらに豊かな感性を育んでほしいと思います。秋の夜長、ご家庭でも本を読んでもみませんか。



